

第26回新任薬剤師研修会に参加して

埼玉病院 加藤 凌雅

出身大学：東京薬科大学（2023年卒）

令和5年3月に東京薬科大学を卒業し、4月より埼玉病院に採用となりました。入職から3ヶ月が経ち、調剤業務に加え、最近では抗がん剤調製も始まり充実した日々を送っております。私は埼玉県出身ではありますが、田舎の方に住んでいて自然に囲まれていたため和光市にきてコンビニや飲食店が多く新鮮さを感じている日々です。地元では主な移動方法は車でしたが、今は自転車さえあれば困ることがなく新生活を楽しんでいます。

今回の研修では講義とグループ活動を通して医療安全について学びました。

まず初めに、国立国際医療研究センター病院 百武 宏志先生に医療安全についてご講義いただきました。国立国際医療研究センターの医療安全体制やDMATを通して安全とはなにか、日本における医療安全の歴史、過去に起きた医薬品による医療事故、インシデントレポートの分析と活用について学びました。そのなかでも特に興味深かったのは「To ERR IS HUMAN 人は誰でも間違える」というレポートによって医療事故への考え方が変化したということでした。このレポートが発表される前は「医療事故はあってはならない」「医療事故は個人の不注意が原因」という考えが主流でした。しかし、このレポート発表を機に「人は誰でも間違える」ことを前提とし、医療事故を「個人の責任」ではなく「組織で対応すべきもの」との考え方に変化しました。私も入職してから、インシデント報告をしましたが不注意によるものでした。不注意のような「ヒューマンエラー」をカバーしていくためにチーム内で指摘し合える環境を作ることが重要であることが分かりました。職場にも慣れ、次の自分の課題は仲が良かっただけではなく耳の痛いことが言い合える関係性

を構築することです。

次に、相模原病院 佐藤 ソメヨ先生のご指導の下、「Team STEPPS」という概念を用いたグループ研修を行いました。特に印象に残ったグループ研修はチームで制限時間内にいくつ輪をつなげることができるかというゲームでした。1回目は制限なく行い、2回目はきき手を禁止で行い、3回目はきき手を禁止したうえで会話も禁止で行いました。もちろん1回目が一番長く輪をつなげることができましたが、不思議なことに2回目よりも3回目のほうが輪を多くつなげることができました。3回目は2回目よりも制限が厳しかったのですが、2回のゲームを通じてどの部分をサポートすべきなのかを個人で考えられたことが大きかったと感じました。他者の視点に立ち、サポートすべき点を見つける能力を育てることは医療においても非常に重要であると思います。また、正確な情報伝達を行わない場合と正確に情報伝達を行った場合のシミュレーション動画を見ました。今回の動画では正確に情報伝達できなかったことで患者さんが亡くなっていました。これから病院で勤務していく中で他職種とコミュニケーションをとることは今後増えていきますが、その際に正確な情報伝達ができないことで適切な治療を提供できない場合もあると改めて認識することができました。

今回の研修では、医療安全やコミュニケーションについて多くのことを学ぶことができましたが、それと同時に同期の仲間とも顔を合わせることもできたのは貴重な経験でした。研修会を実施してくださった関信地区国立病院薬剤師会の皆様へ感謝いたします。